

ある。人を見たら逃げるから先頭の兵が竹竿を持ち蛇拂ひをやりながら行進すると被害はない、咬まれるのは不注意で踏んだり、樹の枝と一緒に掴んだりするからである。咬まれたら即刻傷口より心臓に近い所で三箇所を強く縛り毒が心臓部に流れ込むのを防ぎ傷口を小刀等で刺して血を口で十分吸ひ出し速に衛生部員の手當を受けねばならぬ、蛇の種類に依つて手當する藥が異なるから咬んだ蛇の種類を見届ける事は是非とも必要な事である。

6. 脚氣になるな

脚氣は主としてビタミン缺乏に由つて起るが熱地では特に罹り易い。偏食をせず、新しい野菜や果物を成るべく多く摂るとよい。

一六、馬 衛 生

馬は暑さに馴れるまでは餘程大事にしないと弱り易い、最初に一番注意せねばならないのは日射病及熱射病と蹄葉炎である、それから人のマラリキの

馬 衛 生

六一

五

0362

様に血液中に虫が寄生する病氣のトリパノゾーマ症に侵される事が多い、之等を豫防する事が熱地馬衛生上特に重要である。

1. 馬を大事にせよ

馬はものを言はない、暑くてもどんなに喉が焼けてもどんなに疲れても唯命ぜられる儘に死ぬ迄働く戦友である、だから馬の身になつて可愛がつてやらねばならぬ。

忘れてはならないのは腹一林食はせてやること、特に青草や干草を十分やること、穀類がなかつたら稲や藁だけでもよい、馬の口に入るものは何でも馬糧である、又一日に何回でも水を飲ませてやること、更に食鹽を忘れずに舐めさせる事が大事である、又日中の行動では防暑帽を用ふるか或は草や木の枝を以て日覆をしてやることは日射病豫防上有効であり、出来るなら日中は休ませて夜間の行動が望ましい。

0363

2. 日射病、熱射病とは

馬には最も危険な病氣であつて人の暈病と同じである、呼吸が非常に早くなり全身に大汗をかく、馬は急に元氣がなくなり休ませても頭を垂れて元氣はなく食慾がなくなる。

之を豫防するには防曇帽とか木の枝で頭を保護し飲水と馬糞を十分與へ胃腸の消化を良くする爲に食鹽を忘れぬ事である。

3. 蹄葉炎とは

暑い時の劇動の後或は長途の汽車又は船舶輸送の後に重い跛行を來す蹄の病氣であつて、時として日射病、熱射病と同一原因で來る事もある。歩いて居る間は跛行は明かでないが休むと却つて明瞭となるのが特徴である。應急の手當は先づ蹄を冷すこと穀類をやめ青草又は干草丈にする事がよい。

4. トリパノゾーマ症とは

蠅や蚊が媒介する暑い地方に限られて居る傳染病で、馬の外牛、水牛、豚犬にも罹り、これに罹ると人のマラリヤの様に時々高熱が出て元氣が無くなり次第に貧血し多くは死ぬ。

豫防法はなるべく蛇、蠅のたからぬ様に工夫することである。

5. 水牛、黄牛の使ひ方

水牛は體は大きいが割合おとなしい、濕地の行動が止手で力が強い、物を載せる時は腰の上に載せる、之を使ふ時には一時間毎位に體に水をかけてやるか泥を塗つてやる事が大切である、それでないと荷物を載せたまま、水の中に入つて仕舞ふ事がある。又飼料は干草、青草に少量の穀類を與ふればよいが飼與後約二時間反獨の時間を與へてやる事が大切である。黄牛の使ひ方は日本の牛と大差はない、牛は一般に赤い色が嫌ひであるから使はぬ方がよ

9L

0365

い。

一七、特種地形ノ行動

熱帯地には竹林、ジャングル、甘蔗畑等が多いが其の内の一般行動は森林内と同様であつて瓦斯警戒、火災豫防等に注意する外、布で頬被りし手袋をはめて棘を避ける事が必要である。

以下特別に注意を必要とする點を述べる。

1. 竹林内の行動

竹林は内地のと違つて一株から數本乃至數十本宛群生し枝には棘があり株の内に踏込む事は出来ないものが多い。竹林を通る時には竹林の疎な間を通り下枝を切り落とし又は竹幹を切斷して肉の白い部分を道標にしながら進む。竹林を正面から攻撃する場合は成るべく竹林の間隙から突入するがよい。竹林を利用して防禦する時は之を障礙物とし又は遮蔽に使ふのに有利であるが

特種地形の行動

六五

LL

0366